

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人NPOかなびの丘
-------------------

### ②評価調査者研修修了番号

SK2021198
SK2021210

### ③施設名等

名称：	児童養護施設 生駒学園
施設長氏名：	辻本 佳嗣
定員：	100 名
所在地(都道府県)：	大阪府
所在地(市町村以下)：	東大阪市石切町2丁目5番5号
T E L：	072-981-1005
U R L：	<a href="https://ikoma-gakuen.com">https://ikoma-gakuen.com</a>
【施設の概要】	
開設年月日	1952/5/22
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 生駒学園
職員数 常勤職員：	38 名
職員数 非常勤職員：	9 名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	2 名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	29 名
有資格職員の名称（ウ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	3 名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数：	14 名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（カ）	調理師
上記有資格職員の人数：	1 名
施設設備の概要（ア）居室数：	45 室
施設設備の概要（イ）設備等：	心理棟
施設設備の概要（ウ）：	親子生活訓練室
施設設備の概要（エ）：	

### ④理念・基本方針

【理念】 「感謝・報恩」の、み教えのもと、家庭環境に恵まれない社会的養護を必要とする子どもたちを支援し、子どもたちが、優しい心と社会や人の為に役立ちたいと思う気持ちを育むように取り組みます。
【基本方針】 「一人一人の子どもとの関わりを大切に、豊かな心と健やかな身体を育み、生きる力の基礎を養う」

### ⑤施設の特徴的な取組

1. 自治会活動…子どもたちから選出された役員（高校生）が中心となり、毎月自治会を行っている。施設は、自治会からの要望は職員会議で共有し、真摯に対応している。また、自治会主催の行事を年に数回実施し子どもたちの自発的自主的な自治活動を支援している。
2. 地域中学校校区との連携…中学校・小学校・幼稚園の担当職員を配置し、施設も含め四者の定期的な交流会を実施し、教育と生活の連携を密に、子どもたちの健全育成に重点的に取り組んでいる。
3. 年2回の職員・子どもへのアンケート、個人面接を定期的実施して、職員・子どもの意見・要望の把握に努め、その対応を第三者委員とも共有し、職員から子ども・保護者に至るまで意見表明の機会を保障するとともに、その取り組み状況は、ホームページはじめ学園だよりに公開し、特に学園だよりは施設の外に設置された掲示板に掲示し、地域に「施設の理解と協力」を求める取り組みを行っています。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/10/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/3/19
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和 2 年度

### ⑦総評

<p>[高く評価される点]</p> <p>【支援の質の向上への取り組み】令和5年4月1日より新施設長を中心に運営がなされています。施設長は、グループケアを主軸に、職員が、またホーム（生活グループ）が孤立することのないように、職員ひとり一人とは直接面談を重ね、また職員全員が担当外のホームにも関わる機会を設定し支援対象児童の視野を拡充するなど、職員ひとり一人が「子どもが養育・支援の主役」との信念のもと、ボトムアップを基調に、より質の高い養育・支援体制の構築に精力的に取り組む姿勢が評価できます。</p> <p>【環境整備】施設正門から玄関に至る花木の手入れが行き届き、生活空間においても破損箇所はすぐ補修され快適な生活を提供しています。子どもたちに当たり前の生活を提供し、ひいては社会的養護の連鎖を絶つ、子どもひとり一人の中・長期の成長展望に立った養育が行われています。</p> <p>【施設内虐待防止に向けた取り組み】就業規則や管理規程に虐待（体罰）の禁止を明記し、施設内虐待防止マニュアルやフローチャートに基づく対応を整備しています。新任職員研修や職員会議等で、不適切な関わりについて随時話し合う機会を設けており、また人権チェックリストの実施などを通して虐待防止への意識徹底を行っています。子どもの自己防衛への学習機会については、各ホーム単位でCAP等を実施し、不適切な関わりや虐待防止制度に関する子どもへの周知を図っています。</p> <p>【子どもたちのアドボカシーを意識した取り組み】施設全体においては、子どもの自治会の取り組みにより、生活上のルールや行事の企画等を職員と一緒に決める等、できる限り意見を吸い上げるよう意識しています。また各ホームの日常生活の中で、個別的な関わりを持つことを意識し、年4回面談を実施し状況確認シートを作成する過程の中で、子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めています。他には、通院や児童相談所の通所等の機会を利用し、子どもの意向や要望を聞く機会とした取り組みを行っています。</p> <p>[改善が求められる点]</p> <p>【社会変動に沿う諸書類の整備】目まぐるしく変動する社会的養護を担う施設にあって、常にアンテナを張り規程やマニュアル等の改正や新たな策定等の検証が望まれます。特に、施設の社会的役割・使命を広く市民に理解・協力してもらうとともに、地域とともに歩む活動に昇華するためにも、誰もが理解できる平易で身近な表現・表示の工夫が望まれます。</p> <p>【健全な死角】建物構造の制約や日々の安全面への配慮を要する空間配置にあって、利用者である子ども視点に立ったプライバシーや衛生面（特に幼児ホーム）等の検証・工夫が求められます。</p> <p>【記録の差異が生じない取り組みの整備】子どもに関する養育・支援の実施状況の記録は、記入要領等を整備して、先輩職員から新任職員へ研修等で適切に伝達しています。パソコンのネットワークシステムを新たに導入し、各ホームの担当職員が記録したものをどの部署からでも閲覧できる環境を整備し、職員間で情報共有を密にしています。今後は、より職員間での記録の差異が生まれないような取り組みの整備が望まれます。</p> <p>【保護者への心理的ケアの充実】自立支援計画作成時には心理職も参加し、心理的ケアが必要な子どもには心理職3名による施設内セラピーの実施や生活場面面接、児童相談所によるこころケアの実施、地域の心療内科のクリニックの利用も行っています。今後は、心理職から保護者等への定期的な助言・援助が必要な場合には、心理職の時間的な課題等も踏まえた心理的ケアの充実を図っていくことが望まれます。</p>
--

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回、新施設長のもと受審となりました。自己評価・施設訪問・利用者のアンケートを通して生駒学園の養育・支援及び運営の全体を振り返る事が出来ました。第三者の客観的な視点評価において、改善すべきところ、整備すべきところ等の課題の指摘がありました。一方、現状の良いところにも着目し積極的な評価をいただいたことは施設としての自信にも繋がりました。課題点である保護者や外部への掲示・社会的養育推進計画の見直し・電子化に伴う記録の取り扱いについては、新たな施設の取り組みとして活かしていきたいと考えています。全職員が専門性の向上に努め、子どもたちとともに豊かな生活ができるよう努めてまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】	

■施設の理念や基本方針は、ホームページはじめパンフレット・学園だより等で周知されています。一方「その運営について一般住民が理解できる。利用者等にとっては安心・安全を提供してくれる支援体制が整っている」と身近に実感できる伝達方法（平易な文章・挿絵等）の工夫が望まれます。

## 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
<p>■全国・近畿児童養護施設協議会、市・府の福祉計画と連動して社会的養護を担う施設の使命・役割を見直しています。</p> <p>■施設内においては入所児童に関する統計分析を行い、変動するニーズを敏感に捉え、運営に反映する取り組みが行われています。</p>		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	
【コメント】		
<p>■令和5年4月1日より新施設長のもとで明らかにされた課題について、来年度の事業計画に策定され、施設長のリーダーシップのもと全職員結束した、着実に成果につながる取り組みが期待されます。</p>		

## 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】		
<p>■今年(令和6年)新家庭的養護推進計画を策定し、以前の計画から施設に対するニーズを見直し、社会のニーズに応えうる運営・支援体制の再構築(ハード・ソフト面への付加機能等)に向けて、中長期のスパーンで具体的な取り組みがしっかりと整えられています。</p>		

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

■生駒学園の事業計画は、職員・子どもへのアンケートにより表出された意見要望やホーム（グループケア）の意向も考慮されたものになっています。一方、表出された意向の発信元の地域小規模児童養護施設やホームそれぞれのグループ単位の活動計画は、事業計画へ盛り込み、可視化することが期待されます。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

■事業計画に策定された項目の進捗状況について、日々の引継ぎ会議や職員会議で取り上げられていますが、その取り組みの位置づけは曖昧の域を脱していません。施設として、例えば上半期・下半期・年次という風に定期的な検証・課題把握・改善の取り組みが望まれます。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

■事業計画は施設内に掲示するとともに、保護者には配布がなされ、入所児童には自治会等で説明がなされています。

■利用者への事業計画の情報提供について、内容を補完する写真や図・表を取り入れた「目で見る事業計画」等の工夫、保護者と協同する子育て姿勢の表明が望まれます。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○

	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>■子どもを取り巻く支援について、自立支援計画書はじめ、状況確認シートやチーフ会議・支援検討会議等での検討の仕組みがあります。</p> <p>■電子データにより全職員がタイムリーに子ども一人一人の情報を共有できる反面、データに表記される児童記録の扱い（支援内容・内容の修正・確定等）について、個人情報保護・管理の観点より実効力のある整備体制の稼働が望まれます。</p>		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>■養育・支援の質の向上については、自立支援計画の年2回（策定・見直し）の取り扱い、3ヶ月に1回の状況確認シート作成を行っています。</p> <p>■毎日の引継ぎ等から顕著になった課題や要望について、ホーム会議—チーフ会議—支援検討会議—職員会議とダブル・トリプルチェックを行っています。新施設長のもと取り組みの更なる実効を期待しています。</p>		

## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>■施設長の業務については、管理規程はじめ事業計画・会議資料へ明記し、会議・配布・掲示等を通じて職員しつかりと周知が図られています。</p> <p>■今後、社会的養護を必要とする子どもの心身の自立を担う責任者として、精力的な取り組みが期待されます。</p>		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		

■新施設長のもと、施設を取り巻く社会情勢の変動のもと、運営管理部門の管理規程・就業規則はじめ、養育支援分野のマニュアルに至るまでの既存書類のチェックと、新たに求められるニーズに対応できる取組みが望まれます。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■施設長は養育支援の専門家として職員会議はじめ、支援検討会議・ヒヤリハット会議、給食会議等支援の根幹にかかわる会議に参加し、子ども支援の実情を把握するとともに自らも率先して子ども・職員の安心安全な生活環境、職場体制の向上に取り組んでいます。施設長の視点からの良質の基盤構築が期待されます。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

■施設長は、職員との個別面談やアンケート等を通して、職員一人一人の意見を吸い上げ、運営体制に反映する取り組みを行っています。その積極的・精力的な取り組みによって、順次、具体的な体制が構築されることが望まれます。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者  
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■人材の確保・育成について体制が整備され稼働しています。一方、近年は中途退職者が毎年出ている実情に照らして、職員の定着、ひいては養育・支援の専門性の向上につながる検証・工夫が期待されます。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

■新施設長のもと、人事関係に関する整備の取り組みが望まれます。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

■有給休暇、特別休暇、希望休暇の取得状況を確認し、職員交流会の設定など、職員がひとり抱え込むことなく意欲をもって子ども支援に向き合えるように、休暇の体制整備、職員や子どもとの対人関係等、メンタルヘルスにも配慮がなされています。

■一方、年度途中の退職により、職員へのシフト・業務等の負担増により年度当初の人事計画が順調に回っていない面もあります。人材の確保・育成とともに、離職の要因、定着への検証・取り組みが望まれます。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	

職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。

【コメント】

■人事考課体制の整備とともに、施設長や主任には、職員一人一人の支援に向き合う姿勢を見守り、日ごろから細やかなことも見逃すことなく、その取り組みへの肯定的な言葉かけ（賞賛・励まし・感謝）が期待されます。  
 ■今年度検討され一部実行されつつある「リーダーへの養育支援分野運営への意見表明・活動企画のくみ上げの取り組み」は、来年度は成果につながるよう施設管理職のサポートが求められます。

- |   |  |   |
|---|--|---|
| ② | 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。   | a |
|   | <input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。                                  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。                                     | ○ |

【コメント】

■新任職員（1年目）から初級・中級・上級職員、基幹的職員・主任へと階層別に研修計画が策定され、施設内研修はじめ、全国・近畿児童養護施設協議会、社会福祉協議会、行政、地区施設部会等の外部研修にも積極的に参加を促しています。

- |   |   |   |
|---|---|---|
| ③ | 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。   | b |
|   | <input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。                               | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。                       | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。                              | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。                                | ○ |
|   | (社会的養護共通)<br><input type="checkbox"/> スーパージョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。          |   |

【コメント】

■職員一人ひとりに外部研修会への参加機会を確保するとともに、今年度からOJTに力を注ぎ、職員全体の支援スキルの向上に取り組んでいます。また、対応困難なケースは、ケース会議で施設全体で協議しその対応を検討しています。  
 ■主として、主任がケースの調整役をになっていますが、ケースの理解とより精度の高い支援を提供するため、例えば第三者委員でもある「児童福祉分野の経験者」の活用等により、広く深い視野と展望にたった支援の取り組みが望まれます。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

- |   |   |   |
|---|---|---|
| ① | 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。                 | a |
|   | <input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。 | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。  | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。                | ○ |
|   | <input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。                        | ○ |

	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【コメント】		
<b>■</b> 年間7～80名の保育実習を受け入れています。次代を担う福祉職員を養成するため、実習カリキュラムの整備とともに、「職員が誇りをもって仕事に取り組んでいる姿や子どもとのエピソード」を体感できるように心掛けています。実習を通して福祉事業に関心が高まるように精力的に取り組んでいます。		

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
	<b>①</b> 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】		
<b>■</b> 施設の運営・支援に関する取り組みの情報は適切に開示されていますが、一部、会計に関する情報の提供について必要項目を整えることが望まれます。		
	<b>②</b> 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】		
<b>■</b> 経営分野では経理規程を基に適切な運営が行われています。その運営をよりの確に位置づけるため、今後、一人一施設にあっても、その運用に内部監査あるいはそれに代わる定期的なチェック体制の工夫が望まれます。		

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
	<b>①</b> 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子ども個々の個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> (児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

- 施設及び入所児童と地域は、スムーズな交流活動がなされ子どもたちは生き生きと住民としての活動の場を地域に確保しています。
- 施設の基本的方針を可視化し、地域とともに社会的養護を必要とする子どもたちを共同して育む姿勢を明示するとともに、住民の理解と協力を求める更なる取り組みが望まれます。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

- 入所児童の施設生活の活性化及び多様な人々との交流を目的に積極的にボランティアを受け入れています。一方、地域の教育機関とは四機関会議（幼稚園・小学校・中学校・施設）を開催し教育機関のニーズに対応しています。
- これまでの会議を通して培われてきた教育機関との協力関係について、その基本姿勢を可視化・明文化することが望まれます。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

- 施設の立地環境（特に幅の狭い坂道）に入所児童・職員のみならず地域住民にとっても（特に高齢者）「日常的に危険が潜む」ことを共通課題として、住民の安全対策などに取り組んでいます。
- 隣及び市の障がい者や高齢者の関係機関・団体、要対協、行政機関と定期的に関わり、その課題への対応に積極的に協力しています。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通じて、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

- CSWの施設長を中心に、地域自治会に加入し、地域の行事や施設行事を通して積極的に交流を図り、子どもから高齢者に至る多世代が抱える課題やニーズを把握しています。
- 施設の外に設置された掲示板を活用して施設からも情報を発信しています。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

■地域との交流を通して把握したニーズは施設の近隣で集約されています。子育て世代から高齢者まで、どの地域にもみられる共通の課題に対して、これまで法人・施設が蓄積してきた専門分野の機能を広く社会に還元する活動の取り組みが望まれます。

■防災対策として、近隣の住宅・住民・道路事情等に対応できる物品が整えられています。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

■支援の標準的な実施方法として「生駒学園版援助指針」を策定し、生活の主体者である子どもに馴染みやすい工夫を施すとともに、職員の心構えを明記し、日々子どもの権利擁護に配慮した養育・支援姿勢の堅持、相互検証・確認に努めています。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

■施設・学校生活上生じるプライバシーの確保に積極的に取り組み、状況に応じた対応がなされています。  
 ■幼児の生活空間において、安全への配慮からか、トイレは保育室と隣接して開放設置されています。2歳から6歳の対象児童の衛生管理とともに、子ども一人ひとりの発達状況とプライバシー配慮に柔軟に対応する工夫・改善が求められます。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
---	---	---

<input type="checkbox"/>	理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■入所のしおり・パンフレット・学園だより等、多方面から施設を紹介するとともに、対面では利用者のニーズや課題に配慮した対応がなされ、利用者の不安や心配の軽減に努めています。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■入所児童の過半数が被虐待児童であり、保護者との接触が制限される状況下で、子どもの分離不安を軽減し、子ども自身が安心して施設生活を踏み出せるように細心の配慮をもって受け入れています。  
 ■学齢児には、学校とは事前にカンファレンスを行い、情報交換をおこなうとともに、相互協力して生活・教育両場面への適応に取り組んでいます。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■子どもの生活環境の変化に伴う不安定を出来るだけ解消するため、子どもの自立支援計画・達成度等の情報の交換とともに、子どもが施設生活で慣れ親しんでいるグッズも一緒に移行する等配慮しています。  
 ■退所後も当初の不安・不安定感情に寄り添うとともに、将来にわたって施設・担当者は社会・学校・家庭生活の適応を見守る体制が根付いています。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>

子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。

分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。

【コメント】

■年2回子どもと職員へのアンケートを実施するとともに、施設はその内容を共有して、高校生を中心とした自治会主催の行事活動（スポーツ・ゲーム大会等）に反映しています。  
■ホーム単位でも、担当職員は子どもの発達の状況に応じた、食事会・買い物・ハイキング等の活動を企画実施しています。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①

34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。

a

養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者等の設置、第三者委員の設置)が整備されている。

苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。

苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。

苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。

苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。

苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。

【コメント】

■利用者が意見を表明しやすいように、意見表明の方法とその意見の取り扱いの流れについて、周知が図られています。  
■意見箱やアンケートから表出された意見・要望については第三者委員とも定期的に会合を行い共有を図るとともに、施設の支援機能としてホームページや学園だよりに情報を提供しています。

②

35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。

a

子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。

子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。

相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。

【コメント】

■年2回のアンケートと子ども一人ひとりには生活場面面接を実施しています。  
■施設玄関および各ホームに意見箱を設置し、週1回以上は開錠して子どもの意見・要望のタイムリーな把握と対応に努めています。  
■第三者委員と児童相談所の職員名簿を掲示し相談相手を選択できる環境を整えるなど、利用者（子ども・保護者等）の意見・要望を大切に扱い丁寧な対応の仕組みがしっかりと稼働しています。

③

36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。

a

職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。

意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。

相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。

職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。

意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。

	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○
【コメント】		
<b>■</b> 利用者個人への適切な対応とともに、その内容に応じて、ホーム会議・チーフ会議、支援検討会議でも取り上げています。また、その対応について職員会議で共有を図り、直接支援現場に反映し、施設・職員の支援機能向上に積極的に取り組んでいます。		
(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果	a
①	<b>37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</b> <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】		
<b>■</b> 危機事故対応フローチャートや不審者への対応マニュアル、緊急連絡網、避難訓練の実施を整え、日常生活に起こりうるヒヤリハット事象には委員会を中心に全職員が共有し事故につながる要因への対策について多角的に検証し支援現場に反映するように子ども・職員の安心安全な施設生活の堅持につながる更なる取り組みが期待されます。		
②	<b>38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</b> <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。 <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	a ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】		
<b>■</b> 感染症対応マニュアルを基本に、コロナウイルス対策で習得したスキルを活かして、日頃から手洗いやうがいを励行するとともに、食中毒対策にも細心の注意を払っています。 <b>■</b> 嘔吐物や血液の扱いなど具体的な取り扱いについても職員間で情報の共有・確認が行われています。		
③	<b>39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。</b> <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。 <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】		

■緊急安否確認連絡網、避難訓練、備蓄物品の整備と活用手順等、災害時の施設内外の人命の安全確保の取り組みが、しっかりと整えられています。  
 ■策定中のBCP計画に骨子として提示されてある事項の、各論場面での施設・職員・子どもの具体的な動きについて、今後、精度の高い指標を示す取り組みが望まれます。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○
【コメント】		
<p>■児童福祉部会の児童福祉施設援助指針や生駒学園版援助指針（令和5年4月改訂）を用いて、基本理念や基本方針等も踏まえ、子どもの権利擁護や日々の支援等に関するマニュアルを整備しています。          ■毎年4月の年度初めに、職員会議や支援検討会議、各ホーム会議で、養育・支援の実施方法を確認・周知しています。また支援検討会議においては、各ホーム単位で子どもたちへの支援について、他のホーム職員も参加し話し合いを実施するなど、職員がこれらのマニュアルに基づいた標準的な養育・支援を共有化できる指導体制を設けています。</p>		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【コメント】		
<p>■各ホーム担当職員や主任等が、半年に一度自立支援計画の見直しを実施しています。          ■子どもの意向に関しては、3か月に1回実施している状況確認シートの活用や生活場面での日常的な対話等からの意見の吸い上げにより、子ども等からの意見を集約しています。          ■心理療法担当職員による生活場面観察からの意見も、自立支援計画に反映する仕組みを構築しています。</p>		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
【コメント】		

■自立支援計画策定の責任者を設置し、入所時環境調査書や法人独自のアセスメントシート（学童用、幼児用）を活用し、担当保育士が心理療法担当職員等と連携して自立支援計画を策定しています。  
 ■子どもの担当ケースワーカーや各関係機関等とも協議し、子どもの意向も踏まえて自立支援計画に反映しています。さらに支援困難ケースの対応については、支援検討会議や処遇困難事例検討会も行っています。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■半年に1回、自立支援計画の見直しを行える組織体制を構築しており、職員会議や支援検討会議、各ホーム会議等を通じて定期的に自立支援計画の評価・見直しを行い、養育・支援の課題の把握を行っています。  
 ■高等学校の中退や退所等への事例等、緊急に変更するケースにも対応しています。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■子どもに関する養育・支援の実施状況の記録は、記入要領等が整備され、先輩職員から新任研修等で適切に伝達しています。  
 ■パソコンのネットワークシステムを新たに導入し、各ホームの担当職員が記録したものをどの部署からでも閲覧できる環境を整備し、職員間で情報共有を密にしています。  
 ■今後は、職員間での記録の差異が生まれないように、システムによるキーワード検索や情報共有がよりスムーズにできるように整備されることが望まれます。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>

個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。

【コメント】

■個人情報保護規定に基づき、子どもの記録の保管・廃棄・情報の提供に関する規定を定めています。また個人情報保護に関する職員教育も、個人情報保護規定や生駒学園版援助指針を用いて職員会議等で行っています。  
■子どもや保護者への個人情報の取り扱いについては、ホームページのプライバシーポリシーへの記載や子どもの自治会等で説明しています。  
■今後は、退所者等による入所時の記録の開示請求にも対応できるよう、記録管理システム等によるパソコン文書の改ざん防止にも配慮した取り組みが期待されます。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■子どもの権利擁護については、就業規則や管理規程の中で虐待や体罰の禁止について明記し、職員会議で全国児童養護施設協議会の倫理綱領の唱和を行っています。  
■施設独自の援助指針や子どもの権利ノート、人権擁護のためのチェックリスト等を用いて、子どもの権利擁護への取り組みを行っています。また、施設内虐待防止マニュアルの整備や年2回のアンケートの実施、状況確認シートを活用し子どもの権利擁護に関する取組を徹底しています。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■入所時に「子どもの権利ノート」を配布し、子どもの年齢・発達に応じて各ホームで施設のルール説明と合わせて、施設独自の援助指針をもとに他児との関係構築やプライバシーの保護等説明をしています。  
■CAP実施やプライベートゾーンの説明等を行い、自他の権利について学ぶ取り組みを行っています。また職員の学習機会については、職員会議や支援検討会議による内部研修を実施しています。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/>	□事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■子どもの求めや事情に応じて、生い立ちの整理ができるように一人ひとりのアルバムを準備し、写真やコメント、年月日を入れたものを作成しています。  
 ■個別の事情に応じて、児童相談所と連携し、ライフストーリーワークの実施や事実の告知を慎重に行っています。また、その過程や結果を職員で情報共有しながら、子どもの変容へのフォローも行っています。今後も、生い立ちを振り返る取り組みを継続していくことが期待されます。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	□体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■就業規則や管理規程に虐待(体罰)の禁止を明記し、施設内虐待防止マニュアルやフォローチャートに基づく対応を整備しています。  
 ■新任職員研修や職員会議等で不適切なかかわりについて随時話し合う機会を設けており、また人権チェックリストの実施などを通して虐待防止への意識徹底を行っています。  
 ■子どもの自己防衛への学習機会については、各ホーム単位でCAP等を実施し、不適切なかかわりの防止や虐待防止制度に関する子どもへの周知を図っています。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■入所時は入所時環境調査書を作成し、全職員で子どもの情報共有を行っており、入所当日はウェルカムボードを作成する等、温かく迎え入れる準備を行っています。  
 ■家庭復帰や施設変更にあたっては、子どもが継続して安定した生活ができるようリーフレットを配布したり、各関係機関には引継ぎ文書を渡す等、積極的に継続した支援を行っています。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

■退園に至る経緯やアフターケア記録、卒園者名簿を作成しています。また直接の連絡先を把握し、適切なリービングケアを行っています。  
 ■主任や各担当者が退所後の相談窓口となり、LINE等を活用しつながりを継続できる取り組みを行っています。  
 ■退所した児童が集まる「睦会」を毎年実施し、各時期(年代)に応じて時間設定を行い、より退所した子どもや退職した職員が交流できる雰囲気づくりに配慮しています。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

■各職員や心理職が参加するパート会議や支援検討会議、状況確認シートに落とし込む作業を通して、子どもを理解し、受容的・支持的な対応を行っています。  
 ■子どもたちの職員への信頼感については、意見箱やアンケート結果、毎月行う各グループの自治会や全体で話し合う自治会の中で感じることができ、自治会からの要望については職員会議で情報共有しています。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○

夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。

【コメント】

- 各ホームの日常生活の中で、個別的な関わりを持つことができるように配慮しています。また、年4回面談を実施し、状況確認シートを作成する過程の中で、子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めています。
- 通院や児童相談所の通所等の機会を利用し、子どもと職員の関係性に配慮した取り組みを行っています。
- 夜間は各棟に宿直者を配置しており、大人の存在が感じられる体制となっています。

③

A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。

a

快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。

子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。

子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。

子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。

つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。

【コメント】

- 各ホームや全体の自治会において、職員と共に子どもたちが行事の企画を考えて実行する等、賞賛や励まし、感謝等繰り返しながら子どもたちの自主性や自立性を高める支援を行っています。
- 子どもたちの意見を吟味し、子どもたちの健康等の事情により、その要望が最善の利益とはならないことについては、何故できないかを子どもの発達年齢や特性等に配慮して返答しています。
- 年間の衣類代やお小遣いを増額する等については、子どもたちの要望に応え予算化することで、自分たちで生活を作っているという実感を持たせる取り組みを行っています。

④

A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。

a

施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。

日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。

幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。

学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。

子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。

幼稚園等に通わせている。

子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。

【コメント】

- 年少の幼児には、ピアノに合わせて歌を歌う、ハサミを使うなどといった保育目標を毎年立て、実施しています。また学齢児には、図書やDVD等の貸し出しを実施しています。
- 地域の行事や活動を把握し、各ホームの室内に掲示をし、子どもたちが興味を持ち参加できるようにしています。
- 学習塾で学んだり、ボランティアの活用で施設内でのピアノレッスンをするなど、発達の状況に応じた取り組みを行っています。

⑤

A11 生活のいとなみを通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。

a

子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。

子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。

<input type="checkbox"/>	□地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■学校のクラブ活動や地域のダンス教室等への参加を継続して行う等、社会性を習得する機会を設けています。  
 ■発達の状況に応じて、スマートフォンの使用やネット、SNS等に関する知識・技術の習得を支援しており、また施設内性教育活動(「レインボーサークル」)にも取り組んでいます。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/>	□楽しい雰囲気です食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■各ホームの食事スペースは、清潔さが保たれ、おいしく楽しみながら食事ができる環境を整えています。また子どもの年齢や生活状況、高学年年齢児の遅い食事への対応やアレルギー食への配慮も行っています。  
 ■毎月給食会議を行って、子どもの嗜好調査(年2回)の実施や残食簿を把握しており、自治会等でアンケート結果を発表した上で献立に反映しています。  
 ■行事メニューやバイキングメニューの実施も行っています。他には、各ホームで調理技術を習得できるよう、おやつを作る機会も設けています。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/>	□常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■衣服や靴については、季節ごとに補充・交換しており、子どもたちは近隣の大型商業施設に出かけ、自分たちで選んで購入しています。子どもの要望から、衣料購入費を増額し、またクラブ活動等で必要な場合は別途支給しています。  
 ■各ホームのリビングで、衣類をたたむ・アイロンを掛けるなど行って衣習慣の定着をめざすとともに、衣服管理は年齢や発達状況に合わせて支援しています。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
<input type="checkbox"/>	□子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■各ホーム（6～8名の小規模グループ）は、幼児以外、小・中学生は4人部屋もしくは2人部屋を、高校生には個室を準備し、各部屋に自分のベッドや机があるプライベート空間を確保しています。  
 ■各ホームのキッチンやリビングは清潔に保たれ、家庭的な雰囲気への配慮も行っています。また、清掃や整理整頓の習慣が身につくよう、大掃除割り当て表を作成し、週末に水回りの清掃（お風呂・トイレ掃除等）を職員と一緒にしています。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■定期的な健康診断と身体測定を実施し、学校健診や健康の記録をもとに、子どもの日々の心身の健康管理を行っています。入所時より、食物アレルギーやアレルギー性鼻炎等の特別な配慮を要する子どもたちには、入所時環境調査書を用いて、定期通院等を行い丁寧な対応を行っています。  
 ■日頃より、嘱託医の小児科と連携し、各ホームで服薬管理を行っています。また、施設独自のアレルギー対応マニュアルが作成され、職員間で学習する機会を設けています。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<input type="checkbox"/>	他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■性教育やCAPの研修については、新任職員1,2年目を対象として実施しています。また小学生や低学年に向けて、絵本や動画を用いた性教育の実施や、「生命（いのち）の安全教育」の教材等からクイズ形式で行うなど、子どもの年齢や発達段階に応じて性についての正しい知識を得る機会を設けています。  
 ■各ホームの職員と心理職が参加する性教育委員会（レインボーサークル）が中心となって、子どもの年齢に応じた性教育の冊子作りや各ホームでの性教育の実施状況について情報共有を行っています。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
---	--	---

	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■各ホーム会議や支援検討会議、ケース会議等で、子どもの行動上の問題の要因分析を行い、子ども的人格を否定しないように話し合いを実施しています。  
 ■子どもの権利を尊重した上で、被措置児童等虐待対応の流れや危機・事故対応フローチャート、暴力問題への対応マニュアル、施設内虐待対応マニュアルを活用し、職員間で意見交換をしながら、行動上の問題への支援知識や技術を習得し、子どもたちの暴力・不適応行動などの問題に対して適切に対応しています。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■生駒学園版援助指針や暴力問題への対応マニュアルに沿って、子どもの年齢や発達上の課題に配慮しながら職員の勤務時間や職員・子どもの配置を検討しています。  
 ■各ホームで、職員間の連携やフォロー体制による信頼関係を保ち、子どももその関係性を感じ取れるよう意識しています。またアンケートの実施や意見箱の設置、セラピーや状況確認シート等も活用して、常日頃より施設内での子どもの間の暴力やいじめが生じないような体制を整備しています。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

■自立支援計画作成時には心理職も参加し、心理的ケアが必要な子どもには心理職3名による施設内セラピーの実施や生活場面面接、児童相談所によるこころケアの実施、地域の心療内科のクリニックの利用も行っています。  
 ■心理職から保育士や児童指導員に対し不適切な養育や子どもとの距離感について等の施設内研修も行っています。  
 ■今後は、保護者等への定期的な助言・援助が必要な場合には、心理職の時間的な課題等も踏まえて、心理的なケアの充実を図っていくことが望まれます。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■各ホームの子ども居室には、個別の机を設置し学習環境への配慮を行い、一人ひとりの子どもの希望に沿えるよう、学習ボランティアによる学習指導や地域の学習塾を利用し、個々の学力に応じた支援を行っています。  
 ■各学校担当一覧表や各ホームの職員連絡ノートを活用し、小・中学校等とも連携しながら子どもの情報共有や理解に努めています。  
 ■特定非営利活動法人による子どもたちへの進路支援につながる様々な業種について講義等を受け、今後の人生観や進路について考える機会を設けています。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■子どもの進路選択に向けて、保護者の懇談会への参加等については保護者や学校、児童相談所とも十分に相談し、自己決定ができるように努めています。また進路選択に必要な学校や求人情報資料の収集や見学会への参加等、子ども自らが判断ができるように支援しています。  
 ■不登校等で進路の変更等、やむを得ない状況になった場合には、定時制高校を利用するケースや就労に向けた支援も行い、自立に不安のある児童に対して、ケースに応じて施設生活の継続なども視野に入れた支援を行っています。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

■施設退所後の社会自立を考え社会経験を積むことを目的に、アルバイトの奨励を行っています。またアフターケア事業部のソーシャルスキルトレーニング等を活用しています。その都度、評価と反省を繰り返しながら、子ども自身が自分の課題を見つけ、取り組めるように支援しています。  
 ■アルバイト状況一覧表を作成し、子どもの意向に添ってアルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に努めています。今後も、地域のアルバイト先との連携を継続しながら、また協力事業主等の新規開拓を図り、社会経験の拡大に取り組むことが期待されます。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもに関する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■施設の機能と役割として、子どもたちの家庭引き取りを目標に担当指導員や保育士が相談窓口となり、まずは子どもたちの施設生活に安心感が得られるように配慮しています。  
 ■職員会議等で、家庭支援専門相談員の役割を明確化し、家族からの相談対応や家族関係の調整に取り組む、面会・外出・一時帰宅を通して、家族との関係づくりに取り組んでいます。  
 ■家庭への帰宅が可能なケースについては、カンファレンス等を通して実施に向けて調整し、随時施設・学校行事の情報提供を行い、参加の促しも行っています。

(11) 親子関係の再構築支援

① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

■児童相談所からの援助計画をもとに、自立支援計画を作成し、各ホーム会議やケース会議、カンファレンス等を通して、子ども・保護者・家族への見立てを行い、親子関係の再構築に向けて取り組んでいます。また、毎朝連絡会議で情報共有を図り、積極的に職員が介入して親子関係の維持・修復に努めています。  
 ■外出・帰宅や家庭訪問、親子訓練室を利用した家族関係継続・修復や週末里親を利用する等、養育力向上に向けた取り組みも行っています。